

# ANNS のコンパイル方法

浅川伸一 <asakawa@twcu.ac.jp>

## 1 ANNS の解凍と復元

ANNS は

ANNS バージョン番号.tar.gz

というファイル名になっている。

tar とは Tape ARchive の意味であり、複数のファイルを一つのファイルにまとめるために用いられる。gz とは gnu の gzip というコマンドを使って圧縮されたファイルであることを示している。

例えば、ANNS1.53.tar.gz というファイルを解凍しファイルを復元するには

```
gunzip ANNS1.53.tar.gz
```

とすれば ANNS1.53.tar.gz というファイルが解凍されて ANNS.1.53.tar というファイルができる。tar でまとめられたファイルを復元するには

```
tar xf ANNS1.53.tar
```

とすればよい。カレントディレクトリに ANN1.53 というディレクトリができています。上記のファイルの解凍と復元を一度に済ませるにはパイプ処理を使って

```
zcat ANNS1.53.tar.gz | tar xf -
```

とすればよい。

現在のディレクトリの中身を表示するコマンドは ls である。従って ANNS1.53.tar.gz を上記の方法で解凍復元したのであれば、ls コマンドの結果は

```
ANNS1.53  ANNS1.53.tar.gz
```

のようにになっているはずである。最初の ANNS1.53 は tar コマンドによって復元された ANNS1.53 のディレクトリである。

## 2 make

ANNS は複数のコマンド群からなっている。コマンドを作成するためには `make` というコマンドを用いる。ANNS の復元されたディレクトリに移って `make` を実行すれば良い。例えば ANNS1.53 というディレクトリに移るには `cd`(change directory の意味である) を使って

```
cd ANNS1.53
```

などとすればよい。`make` コマンドには引数は要らない。

```
make
```

とタイプし、しばらく待っているとプログラムが作成される。

## 3 PATH の設定

作成されたコマンド群は ANNS のディレクトリの下に `bin` というディレクトリが作られ、ここにすべてのコマンド群が納められている。時分がどこに居てもこの ANNS のコマンド群を使えるようにするためには `PATH` という環境変数に ANNS バージョン番号/`bin` が指定されていなければならない。例えば

```
cd bin
export PATH='pwd':$PATH
```

などとすればよい。このコマンドでは `bin` というディレクトリに移って (`cd bin`)、環境変数 `PATH` に現在のディレクトリ (`pwd`) と今までの `PATH` 変数の値を指定している。

この操作は自宅のマシンなどでは行なう必要がなく、`bashrc` などに記述しておけば良い。残念ながら早稲田大学の環境では毎回 `make` コマンドから始まって、すべてを指定する必要がある。